**南大沢駅の床を安全に。**

日本では転倒事故の死亡件数が年間およそ、8000件存在する。このような事故のほとんどは、階段などからの転倒で死亡してしまうケースがほとんどだが、床を滑って死んでしまう人も中に入ることが予想される。特に濡れた床は非常に危険である。先日、雨の日にサンダルで南大沢駅を利用すると非常に滑りやすく歩きづらかった。ご高齢の方や、足元が不自由な方にはもっとつらいと思い、このことを改善するために今回のプレゼンに駅の床を選んだ。

まず、駅の床はなぜ滑りやすいのかを説明していく。駅の床の材料には御影石というものが多く使用されており、この石は耐久性に優れており、水を全く吸収しないので、掃除がしやすいというメリットがある。御影石は駅の床や、コンビニの床などによく使用され、コストや掃除の楽さから非常に人気な素材である。またこの材料は光をよく反射し、駅全体が清潔に見える。しかし利用者への配慮に関しては足りていない。先述した通り、水をはじかないので、雨が降った日には水たまりがそのまま残り、よく滑る素材なので、スケートリンクのように駅がつるつるの状態になる。このような状態の床をさらに滑りやすい靴で歩くと多くの人は滑って転んでしまう。それではこのような事案に対処するにはどのようにすればいいのか。

低コストで抑える方法は、靴についた水滴をふくためのマットを敷くことだ。靴から落ちる水滴を抑えることができれば、駅構内がびちゃびちゃにならず、滑ることを防ぐことができる。しかし、多くの人が利用する駅構内でマットを利用してもらうのは若干非現実的であるし、効果もあまり見込まれない。コストはとても低いが、ベストな解決策ではないだろう。

ほかの解決策としては、滑り止め加工を行うというものである。駅で使われているようなタイルに対して滑り止めの加工をしてくれる業者が存在するので、このような行やに依頼することで、大きな効果が見込まれる。実際にホテルなどではこの防滑施行を行っているところが多いようだ。コストとしては、3500万円ほどかかる見込みだ。このように非常にお金がかかってしまうので、実現可能性としては２０％ほどとみている。しかし非常に大きな効果を見込まれるので、南大沢のような非常に多くの利用客がいるような駅にはこのような配慮が必要であろう。